								門字校以生	リハドリナー	<u>ション大学校 シラバス</u>		
科目名												
科目名(英)	(	Groval c	citizen ba	sic II								
単位数			2		時間数	30	時間	担当者		熊丸 真理		
実施年度		202	0年度		実施時期	往	<b></b>	実務家教員 担当科目	理学療	法士として病院に勤務		
対象学科・学年	3	理学療法	芸学科 1	年								
授業概要		医療従事	者として	の正し	なる、感謝心と い言葉使い、社 医療を取るため	とくとしての	マーナーを学			とする。		
授業形式	講	義: (	〇 演	習:	実習:	実	技: O	*	主たる方法:(	つ その他:△		
	言語 情報	知的 運動 技能						目標				
	0		0							感謝することができる。		
学習目標 (到達目標)	0		0		大切に、共同				こ、気づくことだ	が出来る。		
(判廷日保/	0				従事者として、正				<b>セフ</b>			
	0	0			▲医療の中でより					<u></u>		
テキスト・教材	_	1 GCB 1	<u> </u>		区別の下で	<b>り及いコミユニ</b>	·/ / / 2 / 2 / 4	X-0/_0/0/ \ /	と生併くと	<b>%</b> 0		
参考図書		i. dob.	ш / · ( / / )									
	回数				授業項目•内	容			授業外学	修指示		
	1	グローノ	ベルシティ	ィズンと	志~志とは何だ	<b>ე</b> ∖~		振り返りレポート	シートの提出			
	2	グロー/か~	ベルシティ	イズンと	志~どうすれば	まを立てるこ	とができるの	教科書にて復習				
	3	なせ志るの私①		ことがス	マワマ マップ マップ マップ マップ マップ マップ マップ マップ マップ マッ	界の中の日本	マ・日本の中	教科書にて復習				
	4	な色法を	を立てるこ	とがス	切なのか~世	界の中の日本	マ・日本の中	振り返りレポート	シートの提出			
	5			の過去	·現在·未来① <i>‹</i>	~		教科書にて復習				
	6	自己を知	知る~私	の過去	·現在·未来② <i>·</i>	~		振り返りレポート	シートの提出			
170 484 51 77	7	伝えるス	 カを学ぶ(	1				教科書にて復習				
授業計画	8	伝えるス	力を学ぶの	2				教科書にて復習				
	9	伝えるス	力を学ぶの	3グル·	ープコミュニケー	ーション		教科書にて復習				
	10	伝える	力を学ぶの	<b>④</b> グル-	ープコミュニケー	ーション		振り返りレポート	シートの提出			
	11	与えられ	ιた1度の	人生に	に感謝し、志高く	(生きる①		教科書にて復習				
	12	与えられ	ιた1度の	人生に	に感謝し、志高く	(生きる②		振り返りレポート	シートの提出			
	13	自己の	大切さと	責任を目	自覚する①			教科書にて復習				
	14	自己の	大切さと	責任を目	自覚する②			振り返りレポート	シートの提出			
	15	GCB II	を受講し <sup>*</sup>	て、私か	が感じたこと・気	づいたこと・学	せんだこと	振り返りレポート	シートの提出			
		<b>加理方</b>						1				
	I.誅 	越レホー	- <b>卜</b> 100(9	6)								
			 ノポート		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
評価方法			<i>/</i> //─/		<u> </u>	0	0	0		100%		
81 Im/2 744												
履修上の注意												

科目名	1	解剖学演習												
科目名(英)														
単位数			1			時間	引数	30	時間	担当者	,	小川 皓一		
実施年度		202	0年月	ŧ	3	実施	時期	í:	<b></b> 後期	実務家教員 担当科目	医師。	として病院勤務		
対象学科・学年		理学療法		•	•						·			
授業概要	} }	組織に対 と名称を 図る。	する 理解	構造し、学	と理解を生間で活	図る 寅習	。講義形を進める	が式として概 。各項目に	要となる講義	実施した後、自 テストを実施し	ら課題を進	減子の演音より め解剖学的構造 ドルで理解度を		
授業形式	足界	田三井	0	演			実習:		技:		:る方法:〇	その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語報	知的 選動 技能		その他	神経の角	<b>犀剖</b> 的	的構造を	理解し、国家	家試験問題で	・ ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) )				
	0	0			主要な朧	歳器(	の名称と	位置関係を	理解し、国家	試験問題で解	答できる。			
	0	0			身体臟器	器の化	位置関係	を名称を演	習より理解す	る。				
テキスト・教材 参考図書	,	レ・サイエ	ンス・	イン	)解剖学 ターナショ: 第19版)	ナルネ	±	参考文献: ネ	ッター解剖学フ		相磯貞和(訳	夫(訳) メディカ ) 南江堂 日本人		
	回数													
	1 身体の構造の理解 神経系 概要(中枢、抹消 神経の概要) 臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。													
	2 身体の構造の理解 神経系 中枢神経① 脳 臓器の位置関係 名称を自己学習にて													
	3	身体の	構造	の理	解 神経	系	中枢神経	至2 脊髄		臓器の位置関係	名称を自己学	堂習にて進める。		
	4	身体の	構造	の理	解 神経	系:	抹消神経	Z E		臓器の位置関係	名称を自己学	学習にて進める。		
	5	身体の	構造	の理	解 神経	糸の	まとめ	国家試験で	のまとめテス		て構造と繋がり	について理解を得		
	6	身体の	構造	の理	解 心臓					る。 臓器の位置関係	名称を自己学	空習にて進める。		
1-4 410 - 1 -	7	身体の	構造	の理	解 循環	1	動脈系			臓器の位置関係	名称を自己学	空習にて進める。		
授業計画	8													
	9	身体の	構造	の理	解肺					臓器の位置関係	名称を自己学	堂習にて進める。		
	10	身体の				循環	のまとめ	) 国家試	険でのまとめ	国歌試験問題に	て構造と繋がり	について理解を得		
	11	組織学	演習	1						演習にて自己学	習を進める			
	12	組織学	演習	2						演習にて自己学	習を進める			
	13	組織学			<b></b> වන			国家試験で	のまとめテス	確認テスト 国家	マ試験問題にて	確認		
	14	肉眼解	剖学	演習						検体 解剖より	里解を得る			
	15	まとめ												
	(1定 以上	上 ☑期試験 Lを下記	の観	点:	実施する 引合で評 80点以上	価す _)•B	3(70点以	ı	T	点以下)とする				
			b.m.^	/ Arter =		言	語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合		
== /= +- >+		定期					0	0				70%		
評価方法		各項	日の	ナ人	٢		0	0				30%		
									1					
									+					
履修上の注意	Ì	身体解音	川こよ	いて	、構造の	イメ・	一ジと名	称の理解を	自己学習にお	いて進めてお	くこと。			

科目名	•	生理学演習 Physiology : Practice												
科目名(英)	F	Physic	ology	/ ; P	ract	ice								
単位数			1			В	寺間数	308	寺間	担当者	7	大津 隆一		
実施年度		2	:020	年度		実	施時期	後	·期	実務家教員 担当科目	l			
対象学科・学年	Į	里学療	療法:	学科	昼	間部1年								
授業概要	Į	る。講 して身	義を	受け つける	ナ教え ること	科書で勉強	した知識は	は、実習の実際	険によって実	際に体験する	ことによって	ことを目標にす 、本当の知識と 解析して、レポー		
授業形式	講	義:	Δ	7	演	習: 〇	実習:	実	技:	※ 主た	:る方法:〇	その他:△		
	言語 情報		運動 技能	態度 意欲	その他		•	•	目標					
学習目標	0	0	0	0		実習を通し	して、様々な	は機能を体得	し説明できる					
(到達目標)														
テキスト・教材 参考図書	考	<b>教科書</b>	<b>書</b> ∶P	тот	· 標	準理学療法	去学•作業织	療法学 専門	基礎分野 生	理学 第5版	執筆: 岡田	3隆夫 長岡正範		
	回数	#												
	1 電気生理の基礎 学んだ内容を復習し、実習につなげていく											なげていくこと		
	2	実習	運	]動神	<b>静経</b>	云導速度 <i>0</i>	)測定(誘発		実習した内容を	復習し、実習につ	つなげていくこと			
	3	レポ・	<b>−</b> ト1	作成	•				実習した内容を	レポートにまとめ	) <b>ර</b>			
	4	知覚	と行	動(	脳の	仕組み)			学んだ内容を復	習し、実習につ	なげていくこと			
	5	実習	随	意通	動(	の反応時間	]		実習した内容を	復習し、実習につ	つなげていくこと			
	6	レポ・	<b>−</b> ト1	作成	,				実習した内容を	レポートにまとめ	る			
授業計画	7	体性	感覚	Ź					学んだ内容を復	習し、実習につ	なげていくこと			
汉未们日	8	実習	体	性感	対(	2点識別・	重量感覚)			実習した内容を	復習し、実習につ	つなげていくこと		
	9	実習	体	性感	.覚(	触圧覚・温	(度感覚)			学んだ内容を復	習し、実習につ	なげていくこと		
	10	レポ・	<b>-</b> ト1	作成	,					実習した内容をレポートにまとめる				
	11	脳波	こし	ポー	卜作	成				実習した内容を	復習し、理解を活	深めレポートすること		
	12	心電	図							学んだ内容を復	習し、実習につ	なげていくこと		
	13	心電	巡	レポ	<u>-</u>  -	作成				実習した内容を	復習し、内容をし	ノポートにまとめる		
	14	呼吸	量							学んだ内容を復	習し、実習につ	なげていくこと		
	15	呼吸	量	レポ	<u>-</u>  -	作成				実習した内容を	復習し、内容をし	ノポートにまとめる		
	以上	-を下	記の	)観,	点・碧	割合で評価	する。	(筆記)を実施 (上)・C(60点		点以下)とする	o.			
							言語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合		
			期試				0	0				50%		
評価方法		3	実習	レポ	<u></u>		0	0	0	0		50%		
履修上の注意						I		•	•					

科目名	j	運動学 II KINESIOLIGY												
科目名(英)	۲	KINE	SIOI	_IGY										
単位数			2			時間数	601	時間	担当者	齊藤	貴文·仲吉功治			
実施年度		2	2020年	丰度		実施時期	後	ž期	実務家教員 担当科目	理学療法	法士として病院勤務			
対象学科·学年	Ŧ	里学療	索法学	学科 1	年					·				
授業概要	٤	上正常	歩行		助学的	療介入の基礎となっ 1特徴を理解する。								
授業形式	講	義:	0	洹	智:	実習:	実	技:	※ 主た	る方法:〇	その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語報			態度を飲	下版正常	技・体幹の各関節の 常歩行の運動学的 当する範囲の国家	特徴につい	て説明できる。	lできる。 。					
テキスト・教材 参考図書	2 3	)山崎敦 )河合良	女 著:F 表訓 監	PTOTビミ :骨単(記	<sup>ジュアルー</sup> 吾源から	学第6版 補訂 テキスト 運動学 第1版 覚える解剖学英単語集) 覚える解剖学英単語集)								
	回数					授業項目•内容	容			コメント				
	1	オリエ	ンテー	ーション	脊柱	の構造			シラバス内容を事	前に確認して	おくこと			
	2	脊柱0	の安定	要素とi	運動要素	素 骨場と関係			教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと			
	3	骨盤	股関節	節の構造	告				教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと			
	4	股関節	節の安	定要素	と運動	要素(筋の走行)	教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと					
	5	脊柱	股関節	節のまと	:め	脊柱 股関節の確認		これまでの授業資	資料を復習して	おくこと				
	6	膝関節	節 構造	造と運動	の理解	<b>2</b>		教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと				
140 49 = 1 ==:	7	膝関節	節の安	定要素	と運動	要素		教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと				
授業計画	8	膝関節	節の安	定要素	と運動	要素			教科書の該当範	囲を事前に読ん				
	9	足部	各関節	節の構造	きの理角 かっかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいか	<b>2</b> 件			教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと			
	10	足部0	の運動	名称と	真く筋の	)理解			教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと			
	11	膝関節	節 足	関節の記	t とめ	膝関節 足関節の	確認テスト		これまでの授業資	資料を復習して	おくこと			
	12	歩行動	動作に	関する	運動力 🖰	学の基礎			教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと			
	13	正常数	歩行の	歩行周	期・関節	<b>茚運動∙筋活動</b>			教科書の該当範	囲を事前に読ん	しでおくこと			
	14	国家記	式験問	題					これまでの授業資	資料を復習して	おくこと			
	15	全体征	复習+	試験対	策				これまでの授業資	資料を復習して	おくこと			
	以上	-を下	記の	観点•	割合	Ēする。 で評価する。 [以上)・B(70点以	上)•C(60点	以上)·D(59,	点以下)とする。	)				
						言語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合			
	_			験(筆		0	0				70%			
評価方法	Ē	果題と	:各期	間での	ウテス	<b>├</b> ◎	©				30%			
履修上の注意	Ī	身体σ	の運動	かへの	興味を	を持つ事。基本的!	身体構造を自	ら覚える取り	組みが必要。					

科目名	人間発達学 Human Developmental													
科目名(英)	Human De	evelopm	ental											
単位数		1	E	時間数	308	寺間	担当者							
実施年度	2020	)年度	美	施時期	前	期	実務家教員 担当科目							
対象学科•学年	理学療法	学科 1	年											
授業概要	新生児~	12か月(	の人間の認	知や運動発	達を通して、	発達の不思詞	義や人間の行動	動の成り立ち	について学ぶ。					
授業形式	講義: (	) 演	]習:	実習:	実	技:	※ 主た	る方法:〇	その他:△					
	言語 知的 運動 情報 技能 技能	態度 きの代	Ē	'	,	目標	Ę							
	0 0		人間発達	とは何か。ノ	しと動物の違	いについて説	明できる。							
学習目標	0 0		感覚•知覚	₫∙認知の違	いについて記	説明できる。								
(到達目標)	0 0		言葉の発	達、心の理	論について説	明できる。								
	0 0				とは何か、説			_						
	0 0		0か月~1	2か月の粗ス	大運動の発達	について大ま	まかに説明でき	·る。 						
テキスト・教材 参考図書	教科書:「	教科書:「イラストでわかる人間発達学」上杉雅之監修、医歯薬出版  授業項目・内容  授業外学修指示												
	回数	担当の禁囲を予測してするかる												
	1 授業オリ													
	2 発達概念	念 発達	達とは?発達	主理論につ(	ハて		担当の範囲を予課題ノートをまと	習してまとめる						
	3 感覚・知	覚・認知	1の発達	感覚っ	 て何だろう?	その始まり	担当の範囲を予課題ノートをまと	習してまとめる						
	4 言語の多	 発達		言語対	出まり 共同注	E視とは	担当の範囲を予	習してまとめる						
	5 心の発達	 <b>主</b>		· 心の3	 理論とは何か	<u> </u>	課題ノートをまとる 担当の範囲を予	習してまとめる						
	6 原始反射	計と姿勢	反射①	—————————————————————————————————————	 豆射とは何か		課題ノートをまとる 担当の範囲を予	習してまとめる						
est <u>alle</u> =	7 原始反射	討と姿勢	反射②	原始反	射の種類		課題ノートをまとる 担当の範囲を予 課題ノートをまとる	習してまとめる						
授業計画	8 原始反射	射と姿勢	反射③	姿勢反:	射とは		担当の範囲を予課題ノートをまと	習してまとめる						
	9 粗大運動	 動の発達	1	胎児期·新	f生児期の発	 達	担当の範囲を予課題ノートをまと	習してまとめる						
	10 粗大運動	動の発達	2	3か月まで	の発達		担当の範囲を予課題ノートをまと	習してまとめる						
	11 粗大運動	動の発達	<b>3</b>	6か月まで			担当の範囲を予	習してまとめる						
	12 粗大運動	動の発達	<u>(4)</u>	9か月まで			課題ノートをまとる担当の範囲を予	習してまとめる						
	13 粗大運動			12か月ま			課題ノートをまとる担当の範囲を予	習してまとめる						
	14 発達理:						課題ノートをまとる担当の範囲を予	習してまとめる						
			,, _,,		,		課題ノートをまと	<b>か</b> る						
	15 まとめ (1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。													
				言語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合					
評価方法	定期記	式験(筆詞	記)	0	0				60%					
	宿題	・レポー	٢	0	0				20%					
	1]	トテスト		0	0		0		20%					
履修上の注意	予習型の	授業で進	楽しく学びた	いと思いま	す。									

科目名	病理学												
科目名(英)	•••												
単位数		1	ı		時間数		305	 時間	担当者	É			
		2020			実施時期			·····································	実務家教員	3	として病院勤務		
7					<b>天爬时期</b>		124	(州	担当科目		こして例所到伤		
対象学科・学年				1年	+1124 11 TM 244 14 1	\$1- 1 11 <i>5</i>	L = 11 /r	11 LEL+ 0+	+ + + + - = 1 / -   -	1,-4.5	7		
授業概要	て、非	対気σ るよう	)原[	因や病	剖学、生理学なと 態を知る。2.様々 細胞の機能の理∫	な疾患を	を遺伝学	的、構造学的	勺、細胞学 的、	免疫学的、	腫瘍学的に理解		
授業形式	講義:	C	)	演習	: 実習	1:	実	技:	※ 主た	る方法:〇	その他:△		
	言語 知的 情報 技能	運動 技能	態度意欲	その他				目標	Ę				
学習目標	0 0				礎医学である解 病理学において				仕組みと働き	の基礎を習得	引した上に位置す		
(到達目標)	0 0				々な疾患を遺伝学								
	0 0			紐	胞の機能の理解	や、一般	的に知ら	れる病気の名	前とその病態を	理解し、説明で	できるようになる。		
_ 1 _ 1 _ 20 _ 11	系統	看護:	学講	座 夷	門基礎分野 病	理学 疾	病の成	り立ちと回復で	の促進(1) 第	5版 医学書院			
テキスト・教材 参考図書					療法•作業療法								
	回数				授業項目・	内容				授業外学修	指示		
	1 生物	サイキの Z 四 オーナイ											
	2 病现	2											
	3 病気	気の分	}類						前回の教科書内	容の復習をして	おく。		
	4 細胞	包の指	員傷。	と適応			教科書の予習を 前回の教科書内		゚おく。				
	5 創修	易治療	i i						教科書の予習を 前回の教科書内		゚おく。		
	6 循環	景障害	<b>宇概</b>	論(1)			教科書の予習を 前回の教科書内		゚おく。				
授業計画	7 循斑	景障害	<b>手概</b>	倫(2)			教科書の予習を 前回の教科書内		゚おく。				
12 未前 四	8 炎症	定と免	疫尿	芯答					教科書の予習を 前回の教科書内	容の復習をして	おく。		
	9 アレ	ルギ	—相	既論					教科書の予習を 前回の教科書内		゚おく。		
	10 再5	主医療	<b>寮、</b> 愿	禁症					教科書の予習を 前回の教科書内	しておく。			
	11 代訓	射障害	Ė.						教科書の予習を前回の教科書内	しておく。			
	12 遺伝	云障害	雪と 別	台児障	 生				教科書の予習を前回の教科書内	しておく。			
	13 遺伝	云障害	雪と 別	台児障	 書				教科書の予習を前回の教科書内	しておく。			
	14 腫卵	<b>島概</b> 談	侖(2)	)					教科書の予習を前回の教科書内	しておく。			
	15 まと	:め							これまでの授業				
	以上を	下記0	の観	点・割る	を数回実施する。 合で評価する。 点以上)・B(70点					0			
					言語情報	报 知的	勺技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合		
5.5 For -1- 1-1	定			(筆記)	0		<u> </u>				80%		
評価方法		小	テス	<b>,</b>	0		<u> </u>				20%		
履修上の注意													

科目名	•	一般臨床医学												
科目名(英)														
単位数			1				時間数		30	)時間	担当者	:	安藤 廣美	
実施年度		2	2020	年度	Ę		実施時期		;	後期	実務家教員 担当科目	医師	として病院勤務	
対象学科・学年	Į	里学组	療法:	学科	1:	# #								
授業概要							勢、医学対 里解を深め		:なる健康・	病気の概念や	基本的な診断	・治療 につ	いて学ぶ。また	
授業形式	講	義:	C	)	演	当:	実習	3 :	5	<b>昊技</b> :	※ 主た	:る方法:〇	その他:△	
	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度意欲	その他				1	目標	 E E			
	0	0		0		医療人で	である前に	社会	会人である	自覚を持つこる	とができる。			
学習目標 (到達目標)	0	0		0		医学の歴	歴史と体系	を記	说明できる。	)				
(DIZELI DK)	0	0		0		医療人と	として倫理	観を	持つことか	<b>べきる。</b>				
	0	0		0			構造を説明							
	0	0		0		診断の意	意義を説明	月でき	きる。					
テキスト・教材 参考図書	孝	<b>教科</b> 書	書:医	€学	既論	/日野原	重明/医	学書	書院					
	回数	教科学のス別なしてかく												
	1													
	2	医学	一の歴	を と	と体	系2: 中·	教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。							
	3	医学	色の豚	₹中』	レ体	系3· 20·	世紀以降の	の医	学		教科書の予習を	しておく。		
		-								をのすがた	授業資料のまと 教科書の予習を		ίζ.	
											授業資料のまと 教科書の予習を		iζ.	
									、医学とは		授業資料のまと 教科書の予習を		iζ.	
		-							病気と医学 - ・・・・-		授業資料のまと教科書の予習を	めを復習してお	۶ <b>८</b> 。	
授業計画	7									死への対応	授業資料のまと	めを復習してお	۶ <b>८</b> 。	
	8	生体	の恒	≣常′	性と	建康: 健	捷康∙病気∙	• <u>医</u> =	学の体系		教科書の予習を授業資料のまと	めを復習してお	۶ <b>८</b> 。	
	9	疾病	構造	きの	変化	と医学の	変貌: 新	fll	医療シス	テム	教科書の予習を 授業資料のまと	めを復習してお	i<.	
	10	病気	と診	断	学1:	病気の	原因				教科書の予習を 授業資料のまと		s<.	
	11	病気	と診	断:	学2:	病気に	よる身体の	の変	化		教科書の予習を 授業資料のまと			
	12	病気	と診	断:	学3:	病気の	診断				教科書の予習を授業資料のまと	しておく。		
	13	病気	 こと治	療管	 学:	病気の治	療とリハは	ビリー	テーション		教科書の予習を	しておく。		
	14	救急	医猩	复• 疫	·····································	 5防: 病	気の予防	i			授業資料のまと教科書の予習を	しておく。		
	15	まと	め								授業資料のまと	のを接首してお	000	
	(1)抗 以上	 受業 <i>0</i> ニを下	の中 <sup>-</sup> 記 <i>0</i>	り観	点:碧	割合で評	価する。				」 。(3)定期試り 点以下)とする			
							言語情報	報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合	
		定	期討	(験(	筆記	!)	0		0				80%	
評価方法			小	テス			0		0		0		20%	
履修上の注意														

科目名	精	精神医学 1 <b>時間数</b> 30時間 <b>担当者</b> 島田 洋													
科目名(英)															
単位数		1			時間数	301	時間	担当者		島田洋					
実施年度		2020年	丰度		実施時期	後	期	実務家教員 担当科目	医師と	として病院勤務					
対象学科·学年	理学	療法学	学科 1	年					•						
授業概要	患に		治療法							いく。また精神疾 ・制度について理					
授業形式	講義:	0	演	習:	実習:	実	<b>技</b> :	※ 主た	:る方法:〇	その他:△					
	言語 知的 情報 技能		態度 意欲 その他		Į.	'	目標								
	0 0			精神機	能や代表的な	精神疾患の	既要について	説明できる。							
学習目標	0 0			代表的	 な精神疾患の	 )症状•治療• <del>·</del>	予後について	 説明できる。							
(到達目標)	0 0			精神疾	患の方々への	医療福祉制	度について説	明できる。							
テキスト・教材 参考図書	教科	書:上	野武治	ì著、標準	理学療法学・	作業療法学	専門基礎分	野 精神医学	第3版 医	学書院					
	回数			ŧ	受業項目•内?	容			授業外学修						
	1 精神	する。 はより、いんとは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これ													
	2 精神	申機能	、精神	症状(1)			する.								
	3 精神	申機能	、精神	症状(2)			する.		書の該当部分を復習						
	4 脳器	器質性	精神障	害、症状	性精神障害		する.		書の該当部分を復習 かいりょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい						
	5 精神	申作用	物質に	よる障害	言、てんかん		する.		書の該当部分を復習 (						
	6 統合	<b>}</b> 失調	症(1)				する.		書の該当部分を復習 ニュー						
授業計画	7 統合	<b>今失調</b>	症(2)					する.		書の該当部分を復習 ニュー					
及未明日	8 気分	え分(感情)障害 授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復する。 世界に対しては、対象に対しては、対象に対しては、対象に対しては、対象に対しては、対象に対しては、対象に対しては、対象に対しては、対象に対しては、対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対													
	9 神糸	圣症性	障害					する.							
	10 パー	ーソナリ	リティ障	害など				する.		書の該当部分を復習					
	11 知的	内障害	・発達	障害				する.		書の該当部分を復習					
	12 心	身医学	・、ライフ	フサイクル	ノにおける精神	伸医学		する.		書の該当部分を復習					
	13 治療	原とリノ	ハビリラ	ーション				する.		書の該当部分を復習 かいりょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい					
	14 精神	伸保健	医療、	福祉、メ	ンタルヘルス			授業内容に該当 する.	する指定教科書	書の該当部分を復習 だい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい					
	15 まと	め講	義												
	以上を	下記の	観点・	を実施する 割合で評 (80点以 <sub>-</sub>	価する。	l上)・C(60点	以上)・D(59	点以下)とする	。 筆記試験	(100%)					
					言語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合					
== !== -		定其	月試験		0	0				100%					
評価方法															
履修上の注意															

科目名	保健医療福祉制度論													
科目名(英)														
単位数		1			時間	数	3	0時間	担当者	信	東 良輔			
実施年度		20204	年度	-	実施	時期		後期	実務家教員 担当科目	医師。	として病院勤務			
対象学科·学年	理学	療法	学科	1年						·				
授業概要								念と制度を体系 ニ、生活問題・ネ			医療・福祉の法 得する。			
授業形式	講義:	0	)	演習:		実習:	:	実技:	※ 主た	る方法:O	その他:△			
	言語 知的 情報 技能		態度 意欲	その他				目標	E C					
学習目標	0 0							念を体系づけ <sup>-</sup> 対象と制度の何			3ができる			
(到達目標)	0 0			そ	れぞれのサ	側度の利	用にあたっ	れ家と耐度の1 ての窓口と例! について説明	外について説		10. CS Ø			
テキスト・教材 参考図書	よくれ	 )かる:	社会	≩福祉	ミネルヴァ	書房								
	回数				授業項	頁目•内容	 容			授業外学修	指示			
	1 社会	社会保障・社会福祉の理念と体系 1 配布資料を読みなおして、不明な用語について調る。 社会保障・社会福祉の理念と体系 2 配布資料を読みなおして、不明な用語について調												
	2 社会	 <b>ὲ保</b> 障	*社	会福祉	の理念と体	配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。								
	3 社会		≨•社	会福祉	の発展			なおして、不明	な用語について調					
	4 公的	勺扶助	) 生	活保證	<b>姜制度</b>			なおして、不明	な用語について調					
	ځ 5	き もと 家	家庭	福祉の	現状と課題		なおして、不明	な用語について調						
	عت <sub>6</sub>	もと家	家庭	福祉の	現状と課題		なおして、不明	な用語について調						
100 Alb = 1	7 障が	がい者	福祉	业の現場	大と課題 1			なおして、不明	な用語について調					
授業計画	8 障が	 バい者	福祉	业の現場	ナと課題 2	2			配布資料を読みべ、復習及び予	なおして、不明	な用語について調			
	9 高歯	命者福	祉.	·介護保	·険 1					なおして、不明	な用語について調			
	10 高歯	<b>哈者福</b>	祖:	·介護保	·険 2					なおして、不明	な用語について調			
	11 衛生	E•保	建サ	ービス						なおして、不明	な用語について調			
	12 保仮	₫•医∮	療制	度の現	状と課題1					なおして、不明	な用語について調			
	13 保優	建・医疹	療制	度の現	状と課題2	1				なおして、不明	な用語について調			
	14 保優	建・医疗	療制	度の現	状と課題3	}			配布資料を読みべ、復習及び予	なおして、不明	な用語について調			
	15 まと	:හ								なおして、不明	な用語について調			
		下記の	)観	点・割合	で評価する		(上)・C(60	点以上)•D(59						
					言	語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合			
	定	]期試	験(	筆記)		0	0				100%			
評価方法														
履修上の注意														

科目名	地域包括ケアシステム学 Regional Comprehensive Care System Studies											
科目名(英)	Regional C	Comprehensi	ve Care System S									
単位数	2		時間数	608	寺間	担当者	松﨑	f 哲治·木村 孝				
実施年度	2020:	年度	実施時期	後	期	実務家教員 担当科目	理学療	法士として病院に勤務				
対象学科·学年	理学療法	学科 1年					·					
授業概要	立支援•就	対支援等で		去の評価と支				・福祉・予防及び自 は理学療法を実践す				
授業形式	講義: C	演習:	実習:	実	<del></del> 技:	※ 主#	こる方法:0	その他:△				
学習目標 (到達目標)	富語         知的         運動           (情報         技能           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()           ()         ()	因-	或包括ケアシステ。 子分析のプロセスを 圣内科疾患の日常 疑症例の地域理学	を説明できる。 3生活上での』	身体的制約が	の理念と役割を 説明できる。						
テキスト・教材 参考図書												
授業計画	<ul><li>2 地域包括</li><li>3 因子分析</li><li>4 他職種の</li><li>5 他職種の</li><li>6 通所リハ</li></ul>	r アシステムの概 f ケアシステ f について p 専門職種と p は j j j j j j j j j j j j j j j j j j	ムの実現に向けて しての視点と理学 しての視点と理学 ンにおける因子分		まとめプリントを使物を対していません。まとめプリントを使物を対象をはいません。まとめまでラントでもいる。まというでラントである。まというでラントである。まというでラントである。またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、また	The state of t	でおくこと。 でおくこと。 でおくこと。 でおくこと。 でおくこと。 でおくこと。 を書で復習する。 内容理解度を確認する。 でおくこと。 でおくこと。 でおくこと。 でおくこと。 でおくこと。 のおくこと。 のないのは、解説を行う。 る。 のる。 のる。					
評価方法	定期試 中間	)観点・割合		上)·C(60点) 知的技能 〇 〇 〇	評価割合 80% 10% 10%							
履修上の注意												

科目名	1	評価学Ⅱ													
科目名(英)		1単位 時間数 30時間 担当者 山口 寿・松木 直人													
単位数		1単	位		時間数		30時間	担当者	Ť	Д	口寿・	公木 直人			
実施年度		2020	年度		実施時期		後期	担当者実務	経験	病院にて	理学療法業務	られていまでの患者評価など というでの患者評価など			
対象学科・学年	耳	里学療法	去学科	1 昼	 間部1年					<u>I</u>					
授業概要	3	5.			の障害像につ				検査・	測定項目	について実	施することができ			
授業形式	講	義:	Δ	演	習:	実習:	実	·技: O		※ 主た	る方法:○	その他:△			
学習目標(到達目標)	言語情報	知的技能	( 意欲	その他	筋力測定の意安全に配慮し	て実習	を行うことが つ		票						
テキスト・教材 参考図書					查法 原著第9 察法 改訂第2			礎運動学 第	有6版	医歯薬出	l版株式会社	<u>:</u>			
授業計画	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	肩関節 上 OSCE OSCE OSCE OSCE OSCE OSCE OSCE OSCE	に手の観観動見の観観対	け質の的的に質の的的に策	筋力 総論(臨 筋力検査 こおける筋力検 査 床技能試験) 床技能試験:- ける筋力検査 運動における筋	を査 総論 上肢) が力検査 下肢)	と検査技術)		教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授教授	書 書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書資書	したしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたしたした	< </</</</</</</th			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。 (2)レポートを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。														
履修上の注意	H	出席が1	0回に	二満た	ない場合は、	定期試馴	験の受験資格	各を与えない	0						

<u> 車門学校麻牛リハビリテーション大学校 シラバ</u>ス

科目名	運動療法学 I													
科目名(英)	tŀ	nerap	peut	ic e	xerci	se								
単位数			1単	位			時間数	3	0時間	担当者	山口	〕 寿·山下 慶三		
実施年度		20	020	年度	Ę	5	実施時期		後期	実務家教員 担当科目		学療法士として 病院に勤務		
対象学科·学年	理	里学组	療法:	学科	1年	:					•			
授業概要	鴉	法法	は本.	来治	療医	学に属		手段を用り	<b>いた治療法を</b>			大別される。理学 ての理学療法の		
授業形式	講	義:		Δ	演習	:	実習:	212	実技: 〇	※ 主た	:る方法:〇	その他:△		
	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他				E	標				
	0	0				理学療	法における	運動療法	の位置づけ.	歷史的背景	を説明でき	る。		
学習目標	0	0							類を説明でき					
(到達目標)	0	0	0	0	1	筋力、	筋持久力低	下に対す	る評価と治療	その理論を説 ほ	明し実践で	きる。		
	0	0	0	0										
テキスト・教材 参考図書	教	<b>女科</b> i	書:	1)市	橋則	明:運	動療法学「	障害別ア	プローチの理	!論と実際. 文	光堂			
	回数					授	業項目・内容	<u> </u>			授業外学修	·····································		
	1	運動	力療 🧎	去概詞	論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。						
		関節	の構	造の	復習		イリーノートを復習し確認しておくこと。							
	_	関節	百可重	<b>力域</b> 運	動の	実際	バにくい組織・拘	ICFの構造につ 小テスト、デイリ		らくこと。 習し確認しておくこと。				
							・伸張運動の <u>st</u> 支・下肢	<del>茅</del>			「習しておくこと。 習し確認しておくこと。			
								IBV		筋の構造と機能		しておくこと。 習し確認しておくこと。		
							理学的機序		配布資料を事前	]に読んでおく				
							・リングス・大原		配布資料を事前	「に読んでおく				
授業計画	7	伸張	:運動	J <b>③</b> : 7	下肢「	- 腿三頭	頂筋・股関節に	也	配布資料を事前	「に読んでおく	こと。			
	8	伸張	:運動	」②:乍	本幹∙ः	镇部 一				配布資料を事前	「に読んでおく			
	9	伸張	運動	j <b>3</b> :_l	上肢角	防肉の気	走行と伸張方:	法		小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。				
	10	関節	モビ	ライも	ヹーシ	ョン①:	目的·方法			小テスト、デイリ 配布資料を事前		習し確認しておくこと。 こと。		
	11	関節	モビ	ライも	ヹーシ	ョン②:	実際 上肢			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。   配布資料を事前に読んでおくこと。				
	12	関節	i <del>t</del> Ľ	ライも	ヹーシ	ョン②:	実際 下肢			小テスト、デイリ 配布資料を事前		習し確認しておくこと。 こと。		
	13	関節	i可動	域測	定結	果の解	釈とアプローデ	チの実際①	)		一ノートを復習	習し確認しておくこと。		
	14	関節	可動	域測	定結	果の解釈	釈とアプロー <del>う</del>	チの実際②	)	小テスト、デイリ	一ノートを復習	ーー。 習し確認しておくこと。 整理しておくこと。		
	15	まと	め							動画撮影した実		間で練習し実技試験		
				容の	振りi	図りとし	,てデイリー <i>,</i>	ノートを提	出する。(	に臨むこと。 2)各単元のま	とめとして	小テストを実施す		
	る。 (3)症	2 推用電	计陆	(宝‡	t 筆	記)を	主施する じ	」 トを下罰	つの組占・割会	合で評価する。				
								(以上)·C	(60点以上)	·D(59点以下				
							言語情報	知的技 能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合		
					筆記)		0	0	0	0		60%		
評価方法		定			実技)		0	0				20%		
			小-	テス	<u> </u>		©	0				20%		
履修上の注意	定	三期記	—— 試験	には	実技	試験も	<u></u> 含みます。	ı		1				

科目名	日常生活活動学 I								
科目名(英)	Activities of daily living								
単位数	1単位	<u>.</u>	時間数	30	時間	担当者	ħ.	公岡 美紀	
実施年度	2020年	度	実施時期	後	<b></b>	実務家教員 担当科目	理学療法	士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学								
授業概要	1. 「ADLの概念と範囲」を説明できる。 2. 「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。 3. 補装具の名称、部位の名称、機能、用途が説明できる。 4. 基本的動作の介助方法(全介助)について説明できる。								
授業形式	講義: 〇	演習:	実習: 実技: 〇			※ 主たる方法: O その他: △			
学習目標 (到達目標)	情報   技能   技能   窓前   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	日保 日常生活活動学の概念、範囲、項目、理学療法の中での位置づけを説明できる。     日常生活活動学とICF、日常生活活動学とQOLのそれぞれの関係を説明できる。     日常生活活動学とICF、日常生活活動学とQOLのそれぞれの関係を説明できる。     日常生活活動学の評価について理解し実践できる。     日常生活活動学における補装具の種類と活用法について理解し実践できる。							
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)細田多穂:日常生活活動学テキスト、第2版. 南江堂								
授業計画	回数		授業項目•内容			授業外学修指示			
	1 理学療法に	1 理学療法におけるADLの位置づけ・概念・範囲					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2 QOLの概念・IL	2 QOLの概念・IL運動の概念・ADL指導(ICFとICIDH・「できる ADL」と「しているADL」					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	3 評価の意義・目的、評価基準、尺度・評価に際しての留意点・実用性の考え方					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	4 量的評価と	4 量的評価と質的評価、動作観察・分析とその実際 小テスト①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	5 FIMとBarthel index					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	6 FIMとBarthel index					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	7 中間テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	8 補装具	8 補装具 杖、歩行器					実技		
	9 基本動作	9 基本動作 意義、目的、臥位、寝返りの指導					実技		
	10 基本動作	10 基本動作 寝返りの指導					実技		
	11 基本動作	1 基本動作 起き上がりの指導					実技		
	12 基本動作 立ち上がり、移乗の指導					実技			
	13 国家試験問		国家試験問題を整理しておくこと						
	14 国家試験問題と解説					国家試験問題を整理しておくこと			
	15 全体復習、試験対策					授業内容を振り返り、内容を整理しておくこと。			
	(1)各授業内容の振り返りとして課題ノートを提出する。 (2)前半のまとめとして中間テストを実施する (3) 定期試験(筆記)を実施する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
評価方法	定期試駁	<b>金子</b> (筆記)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	中間テスト		©	0	0			20%	
履修上の注意	定期試験には実技テストも含まれます								

専門学校麻牛リハビリテーション大学校 シラバス 物理療法学I 科目名 科目名(英) Physical Agents 単位数 時間数 30時間 担当者 仲吉 功治・熊丸 真理 実務家教員 実施年度 2020年度 実施時期 後期 理学療法士として病院勤務 担当科目 対象学科 · 学年 理学療法学科 1年 物理療法の定義や分類を学習し、理学療法における物理療法の位置づけを理解する。また物理療法で適応の多い炎症、それらに対する 授業概要 物理療法の考え方を学ぶ。温熱・寒冷・水治療法の特性・生理学的作用を学び、適切な使用方法を学ぶ。 授業形式 講義: 演習: 実習: 実技: ※ 主たる方法: 〇 その他: △  $\bigcirc$ 運動 態度 技能 意欲 その他 目標 理学療法における物理療法の位置づけを理解し説明できる。 0 0 物理療法の適応の多い病態について理解し説明ができる。 0 0 学習目標 (到達目標) 各物理療法の種類・定義・目的を説明することができる。 0 0  $\circ$ 000 各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。 テキスト・教材 吉田秀樹 編: Cross link理学療法学テキスト 物理療法学 参考図書 回数 授業項目 内容 授業外学修指示 オリエンテーション・物理療法導入(機器体験) シラバス、期末試験範囲の確認 1 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 2 物理療法導入(水治療法実践) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 3 物理療法概論・物理療法の分類 数科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 水治療法①(水の物理的特性・生理学的作用・適応・禁忌) 数科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 物理療法の適応の多い病態①(炎症・組織修復) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 寒冷療法①(概論・寒冷療法の生理学的作用) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 7 寒冷療法②(寒冷療法実技) 授業計画 これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと 中間テスト 8 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 温熱療法(1)(概論・熱物理学) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 10 温熱療法②(温熱療法の生理学的作用) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 11 温熱療法③(ホットパック・パラフィン) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 温熱療法④(超短波・極超短波) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 13 温熱療法⑤(超音波) これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと 14 国家試験問題 これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと 15 まとめ (1)授業の中で小テストを実施する。 (2)授業の中で中間テストを実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 運動技能 態度•意欲 言語情報 知的技能 その他 評価割合 定期試験(筆記/実技) 0 0 0 0 80% 評価方法 中間テスト 0 0 20%

## 履修上の注意